

調布・生活者
ネットワーク

調布・生活者ネットワーク
〒182-0022 調布市国領町 8-1-13
TEL/FAX: 042(487)3087
email: waku2seikatusha@mpd.biglobe.ne.jp
HP: http://chofu.seikatsusha.me/

市議会議員
木下安子

活動レポート第142号 2023.10.25
発行責任者 八木昭子

第三回定例会 一般質問



「不登校」の概念を変えて、
一人ひとりに合った学びを保障しよう!

学びの目的は社会的自立

教育機会確保法は、学校に限らない多様な学びの環境整備を目指しています。調布市内でも学校を長くお休みする小中学生は増加の一途をたどっていますが、一般質問では、不登校は問題行動ではなく、学校に行くことだけを目標にしないとの市教育委員会の認識を確認しました。



適応指導教室の名称変更を

「適応指導教室」（調布市では通称太陽の子）は、不登校児童を学校へ戻すために指導する施設でしたが、文科省も現在は「教育支援センター」に変更しています。市でも早急に名称を変更するよう求めました。

主体的な学びを評価し、出席扱いに

フリースクールの利用など、学校外での学びを出席扱いとする事例は増えていますが、対応にばらつきがあります。不登校児童・生徒の努力を学校が評価し支援することは重要との認識のもと、教員研修などを通して、対応の差が生じないようにするとの答弁でした。今後も、学校に限らない主体的で多様な学びへの理解と評価を求めていきます。



学びの場を増やそう

校内ステップルームの設置は中学校7校、小学校は約3分の1にとどまっているため、全校への配置を求めました。自分のペースで学習を進めることができるオンライン学習教材の導入は研究中との答弁。学びの選択肢を増やすよう求めました。

保護者も孤立している!

子どもが学校に行けなくなると、多くの保護者が自責の念や地域での孤立、将来への大きな不安に直面します。保護者の会の情報を収集・提供し、保護者が孤立することのないよう支援していくとの前向きな答弁でした。

安心して過ごせる教室づくりを!

そもそも学校が多様な子どもたちに適応し、どの子ども安心して楽しく過ごせる場所になるために変わる必要があります。そのためにも、教室で必要な合理的配慮がなされ、インクルーシブな環境整備が進むよう、就学支援シートや作業療法士の活用促進を求めました。



IKEA Japanの協力で、多様な学びの場として
リニューアルした太陽の子の1F

京王多摩川駅舎のバリアフリー化は
センター移転前に!

市は「地域共生社会の充実」を掲げ、現在調布駅前にある総合福祉センターを京王多摩川駅前の開発ビルに移転する計画を進めています。しかし、利用者のみならず、これまでに開催されてきた2つの検討会においても、最後までアクセシビリティへの不安の声が聞かれました。京王多摩川駅舎のバリアフリー化の内容や時期が確約されなかったことが大きな原因です。一般質問では、京王多摩川駅へのホームドア設置の時期は、駅周辺の開発状況を十分勘案して考えるとの京王電鉄の見解が共有され、市からもセンター移転に間に合うよう協議していくとの姿勢を確認しました。

また、委員から要望が多かったエスカレーター設置は、技術的にも財政的にも厳しいとの見解が示されており、市や京王電鉄の姿勢に不信感も生まれています。市長からは、総合福祉センター整備に合わせ、アクセシビリティの確保や京王多摩川駅のバリアフリー化に全力で取り組むとの答弁があり、一筋の希望を感じました。

私たち調布市民にとって、福祉の拠点を市の中心地から移転しつつ、地域共生社会の充実を図るといふこの移転事業は、さまざまな立場の市民が協働で取り組まなければ達成できない大きなチャレンジです。意見の相違はあっても、分断で終わらせることなく、意見を出し合いながら、私たちのソーシャルインクルージョンを目指していきましょう。